

講義名	障害者心理学			授業形態	
担当教員	小山 正	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

### 主題と概要

本講義の到達目標1-9を達成することで、人間社会学部が「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できます。「障がいとは何か」を考えると、障がい児・者の心理学的援助を理解しその実際を知ることで、現実社会の取り組むべき課題の一つである共生社会の実現に貢献できるようになります。本授業では、できるだけ事例を通して障がいのある子どもの乳幼児期から成人期の発達に関して「障害児発達学」の観点から学びます。特に、乳幼児期の早期教育・療育の問題、親への支援のあり方、学校教育における課題、学校終了後の課題、自立などについて、「障がいをもつ子どもが発達する」という「障害児発達学」の立場から述べていきます。学校教育に関しても詳しく述べます。本講義では、インクルージョンの考え方により、わが国の学校教育が特別支援教育に移行したことを踏まえ、障がいのある子どもの発達上の問題や療育方法および学校教育、学校終了後の課題について説明できることや、障がいをもつ子どものコミュニケーションとその発達についても説明できることを目指し、障がいの特性理解および心身の発達についても学びを深めます。

### 到達目標

1. 障がいをもつ子どもの発達と教育について説明することができる。(知識)
2. 障がいをもつ子どもの発達上の問題について説明できる。(知識)
3. 療育方法および学校教育について説明できる。(知識)
4. インクルージョン教育システムを含めた特別支援に関する制度の理念や仕組みを説明できる。(知識)
5. 障がいをもつ子どものコミュニケーションとその発達について説明できる。(知識)
6. 特別支援教育に関する教育課程の位置づけと内容を説明できる。(知識)
7. 進級による指導、および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を説明できる。(知識)
8. これまでと違った観点から障がい児・者への配慮することができる。(態度・態度)
9. 地域の療育について講べることができる。(技能)

### 提出課題

講義内容と主題に関連した小レポートを毎回授業において提出すること。小レポートについては、以降の授業時に、記述のポイントなど、全体にコメントを行います。また、学期末には、まとめのレポートを指定された期間に提出します。まとめのレポートについては、最終授業において全体的にコメントを行います。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義内容と主題に関連した小レポートを毎回授業において提出します。小レポートについては、以降の授業時に、記述のポイントなど、全体にコメントを行います。まとめのレポートについては、最終授業において全体的にコメントを行います。

### 評価の基準

全授業回数の3分の2以上の出席者が単位の認定・評価の対象になります。毎回の講義内容に関する小レポート(70%)と、学期末のまとめのレポート(30%)によって評価します。小レポートでは、毎回の主題に関しての理解を問い、まとめのレポートでは到達目標から評価します。

### 履修にあたっての注意・助言他

障害者心理学の内容は、心理学だけでなく、福祉、教育、医学の分野が関わる学際的なものです。本授業は、「発達」という観点から講義を進めていきます。発達心理学、教育学などの授業で障がいや発達障害について学ばれたことをこの機会に今一度、整理しておいていただき、さらに深めていただくことができればと思います。

### 教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

### 参考図書

、「自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達」、	小山 正・神土陽子(編)	ナカニシヤ出版	2600	978488488969

### その他

小山 正・神土陽子(編) 「自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達」 ナカニシヤ出版。テキストは使用しません。資料を配布します。その他の参考図書は随時、授業の中でお知らせします。

### 授業計画

1. 子ども理解と障がいをもつ子どもの教育
2. 発達障害とは
3. 自閉スペクトラム症をもつ子どもの言語発達の諸相
4. こころはの備わった障がい
5. 障がいをもつ子どもの遊びと発達
6. 個別療育と集団療育の意義
7. 早期療育と親への心理的サポート
8. 学校教育—特別支援教育に関する教育課程
9. 通級指導教室と交流教育
10. 特別支援教育の実態とこれからの課題
11. 自立とは。就労の問題—学校終了後の問題。
12. 事例研究
13. 息養期・青年期の問題
14. 障害児発達学とは
15. 振り返りと総括

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前学習として、前回の授業の資料を読んで整理すること（目安として2時間）、事後学習として配布資料や授業中に指示した参考書の箇所を読んで毎回の主題に関して要点や疑問点をまとめること（目安として2時間）。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は、障がい児・者の心理・行動特性の知識とそれに応じた援助技法の知識の習得を目的としている。到達目標1-9を達成することで、人間社会学部が、特に人間社会学科（心理コース）の目標に貢献し、障がい児・者の相談援助の実践に活用でき、障がいの概念や障がい者の心理学的援助の重要性や実際を知ること、「現代社会の取り組みべき課題の一つである共生社会の実現」に貢献できるようになる。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員を9年間経験した実務経験がある教員です。療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。

### 備考